

天然素材で布に染色 高津

植物などが材料の天然染料を使い、屋外で大きな布を染める「野染め」が20日、川崎市高津区下作延の市子ども夢パークで開かれた。同パークを運営するNPO



法人「フリースペースたまりば」(西野博之理事長)が主催し、市民ら約30人が参加した。

毎年恒例の行事として、京都市内在住の染色家斎藤洋さん(66)を招いて行った。参加した子どもたちは、赤い色が出るカイガラムシの染料や、同パーク内で収穫したドングリで作った灰色の染料など16種類の手作り染料を使い、幅約1・1メートル、長さ約20メートルの木綿の白い布をはげで染色。布は一面カラフルで柔らかい色合いに染められ、乾燥後に生地として使用する。

長男(3)や友人と一緒に参加した川崎市内在住の山中洋美さん(30)らは、「普段は使わない染料を使うのが楽しかった」「貴重な経験だった」などと話していた。(佐本 真里)

はげで布をカラフルに染めていく参加者たち

市子ども夢パーク